

# 第1回包装近未来シンポジウム

2020年に向けたグローバル戦略・  
サステナビリティ社会・包装新技術・変わる消費者の動向を探る

- 開催日：平成26年3月18日(火)
- 会場：公益社団法人日本包装技術協会 会議室
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

## 開催にあたって

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定は、日本国民にとって大変明るいニュースとなり、これからの日本を考えていく絶好の好機ともなっています。包装分野においても、予想される社会構造の変化や消費者のライフスタイルの変化の中で、どのような技術の開発が進み、またどのような技術の開発が期待されているのか等、近未来に向けた関心が高まって参りました。

このような状況を鑑み、包装を取巻くいろいろな分野からの専門の方々をお迎えし、“包装近未来”に焦点を当てた第1回目のシンポジウムを開催致します。

本シンポジウムが、これからの包装を考える機会となり、未来に向けた取組みへの指針や対策等に役立って頂ければ幸いに存じます。

## 講演者・パネリストの紹介

### 加藤 直美 氏

トレードワーク 消費生活コンサルタント  
愛知県生まれ。消費生活コンサルタント。  
マーケット・リサーチに基づくメーカーや小売業のマーケティング・サポートを行う「トレードワーク」に参画するとともに、商業界刊行の専門雑誌(「販売革新」、「食品商業」)などに執筆。  
著書：『コンビニ・ドットコム』(商業界)『コンビニ食と脳科学—「おいしい」と感じる秘密』(祥伝社新書)  
『コンビニと日本人—なぜこの国の「文化」となったのか』(祥伝社)

### 住本 充弘 氏

住本技術士事務所 所長  
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や海外企業及び国内企業の包装コンサルタント活動や具体的なパッケージ開発の支援を続けている。  
日本技術士会会員、技術士包装物流グループ会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員  
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

### 金井 路也 氏

日本テトラパック(株) 環境本部 マネージャー  
東京理科大学工学部卒業後、ソニーグループにて調達、新規事業開発、環境関連の事業開発に従事、ナムコグループの新会社立上げなど様々な業務を務める。2004年日本テトラパック(株)に入社、環境本部に配属。スウェーデン本部のLCAチームに半年間所属。全国牛乳容器環境協議会専門委員、紙製容器包装リサイクル推進協議会技術委員等を兼務。現在に至る。

### 神田 和裕 氏

豊田通商(株) 基礎化学品・合樹部 基礎化学品グループ 課長職 バイオPETチームリーダー  
1998年 豊田通商(株)入社 人事部に配属  
2003年 豊田通商タイランドに出向 バンコク駐在  
2008年 有機化学品部 合繊原料グループに異動  
2013年 基礎化学品・合樹部 基礎化学品グループとして組織再編、現在に至る

### 岡本 健三 氏

(株)クラレ エパール事業部  
グローバルマーケティンググループ  
1988年 大阪外国語大学 イスパニア語科卒業  
1988年 (株)クラレ入社  
エパール事業部に配属後、主に海外市場の開拓、海外子会社マネージメントに従事  
2014年4月より現職

### 大山 彰 氏

(株)細川洋行 営業事業部 取締役事業部長  
1976年 明治大学法学部卒業  
同年4月(株)細川洋行入社 業務管理部配属  
1978年 営業事業部配属  
現在に至る  
※日本包装専士会10期生

### 後藤 敏彦 氏 (企画委員)

NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事  
1964年 東京大学 法学部 卒業  
環境監査研究会代表幹事、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク(NSC)代表幹事、社会的責任投資フォーラム会長、グローバル・コンパクト・ボード・ジャパンメンバー、JCSJ共同議長、拓殖大学客員教授、東京経済大学現代法学部非常勤講師、環境経営学会(理事)、地球システム・倫理学会(常任理事)、環境管理規格審議委員会・EPE小委員会委員・14005WG委員、日本環境経営大賞審査委員 等  
著書：「サステナビリティと本質的CSR」(2009、共著監修 三和書籍)、「環境 持続可能な経済システム」(2010、共著、勁草書房) 等

### 有田 俊雄 氏 (企画委員)

(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長  
1956年 東京大学工学部応用化学科卒業  
日本パルプ工業(株)(現王子製紙(株))、ダイパッケージング(株)(現三菱商事パッケージング(株))を経て、  
1997年～ パッケージング・ストラテジー日本代表  
2007年4月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを設立、取締役社長  
技術士・包装管理士 2005年「米国包装功労賞(包装殿堂)」受賞  
著書：「包装“国際化”宣言」日報(2000)、  
〔共著〕“Japan Packaging Innovations: Technology and Industry Report”(英文: Packaging Strategies, 2005)  
〔定期刊行物〕Packaging Strategies Newsletter(日本語版)

## プログラム

時 間	テ ー マ	講 演 者
10:00   10:50	<p><b>「2020年の小売業のカタチと期待される包装</b> ～消費者のライフスタイル変化に小売業はどう変わろうとしているか～</p> <p>人口の減少と高齢化などにより社会構造が変化し、消費者のライフスタイルは変わっている。さらにネットやスマートフォンの普及によって、消費者の購買チャネルの選択肢が増え、小売業では、実店舗における競合のみならず、ネット事業者との競合にも晒されている。</p> <p>社会構造の変化に伴って、消費者のライフスタイルが変化していく中で、小売業は、どう対応していこうとしているのか。</p> <p>2020年に向けての小売業の動向を、店舗開発、ネットとの融合、商品開発などを通じて概観しつつ、期待される包装について考察を進める。</p>	<p>トレードワーク 消費生活コンサルタント <b>加藤 直美 氏</b></p>
11:00   11:50	<p><b>「世界に発信できる日本の包装技術と今後の展望」</b></p> <p>日本の包装技術は世界でも高い水準にある。パッケージ業界もグローバル化促進が進む中で、世界に発信し広く展開できる技術が多い。世界のニーズにマッチし技術輸出が出来ると思われている日本の包装技術と今後期待される食品分野のSave Foodにおける包装技術について述べる。</p> <p>1. 世界に発信できる日本の包装技術</p> <p>1-1 世界的にもトップレベルにある技術で世界が求める易開封技術</p> <p>1-2 液体小袋、その他各種充填包装技術や品質管理技術</p> <p>などの技術や製品について必要背景と輸出可能性を述べる。</p> <p>2. 今後の展望：「もったいない」 Save Foodのための包装技術</p> <p>Save Foodは世界の食糧事情から国及び食品業界にとっての大きな関心事である。</p> <p>現在、どのような動きが世界及び日本で行われ、それに対して、包装は今後どのような動きをし、2020年に向けてどのように動かなければならないか。具体的な課題を挙げて取り組みの方向性や開発技術について述べる。</p>	<p>住本技術士事務所 所長 <b>住本 充弘 氏</b></p>
13:00   13:30	<p><b>「環境優位性をより高めていくために“テトラパックが目指していくもの”</b></p> <p>テトラパックは、食品加工処理と紙容器充填包装システムの世界的リーディング・カンパニーとして、世界中の人々のニーズを日々満たすための安全、革新的で、かつ環境に配慮した製品を提供しています。世界150カ国以上で事業展開しています。</p> <p>テトラパックは、再生可能な資源を効率良く利用し、環境負荷の低いビジネスモデルを構築し、持続可能な社会の構築に世界的に取り組んでいます。環境優位性をより高めていくことが、2020年に向けての優先事項の一つとなりました。本講演では、テトラパックが未来に向けての目指していくもの取り組みを中心に紹介いたします。</p>	<p>日本テトラパック株式会社 環境本部 マネージャー <b>金井 路也 氏</b></p>

### 企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (その他NPO代表 委員多数)
- 有田 俊雄 氏 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長

時 間	テ ー マ	講 演 者
13:40   14:10	<p><b>「世界初・植物由来PETサプライチェーン構築へ」</b></p> <p>豊田通商は、世界で初めてとなる原料から製造・販売までを一貫した植物由来PET（以下、“グロービオ®”または“GLOBIO®” website: <a href="http://globio.jp">http://globio.jp</a>）のグローバルサプライチェーンを構築し、バイオエタノール（ブラジル産サトウキビ由来）を粗原料とするバイオモノエチレングリコール（1,2-エタンジオール/以下“バイオMEG”）の商業生産（台湾/高雄市）を本年2013年3月から開始した。</p> <p>このサプライチェーンにおいて豊田通商は、年産7万トンのバイオMEGメーカーであり、最終的に生産・販売する“グロービオ®”は、最大で約20万トン/年規模である。</p> <p>ユーザーに安心して使用頂くためには、原料のトレーサビリティが必須であり、そのためには原料からPETレジンに至るまでの一貫生産のニーズが高まると考えている。</p> <p>植物由来PET一貫生産の狙いとスキーム、今後の展望について説明する。</p>	<p>豊田通商株式会社 基礎化学品・合樹部 基礎化学品グループ 課長職 バイオPETチームリーダー 神田 和裕 氏</p>
14:20   14:50	<p><b>「包装市場におけるバリア素材の新しい可能性を追求して」</b></p> <p>食品用包装材料を取り巻く環境は、食の安全確保、食品廃棄の削減、地球温暖化抑止への対応など課題が地球的規模で山積みの状態です。また、新興国が豊かになる過程において、包装材料の市場拡大と同時進行で、これらの問題は増幅していきます。その環境下で、伝統的な缶や瓶に代わるバリア素材は、利便性向上、賞味期間延長、環境・安全対応などの要望を満たすために進化を続けています。〈エパール〉EVOH樹脂・フィルム事業の40年の事業経験から、バリア包装市場のトレンドを俯瞰し、今後の包装市場において、さらに付加価値を付けたバリア素材を提案するための当社の取り組み事例を紹介させていただきます。</p>	<p>株式会社 クラレ エパール事業部 グローバルマーケティング グループ 岡本 健三 氏</p>
15:00   15:30	<p><b>「世界に広がり進化し続けるチアーパック」</b></p> <p>チアーパックはヨーロッパ、アジア、オーストラリア、アメリカについて、中央アメリカコスタリカまで広がっている。欧米では、ベビーフードが中心に伸びていて、日本では水素水の容器として注目を集めている。</p> <p>従来型のチアーパックとは別に「チアーソフト®」の開発にも成功しサンプル出荷を始めた。</p>	<p>株式会社 細川洋行 営業事業部 取締役事業部長 大山 彰 氏</p>
15:45   17:00	<p><b>パネルディスカッション</b></p> <p><b>『包装近未来を引っ張る重要なキーワード』</b></p> <p><b>【司会進行】</b> 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長</p> <p><b>【パネリスト】</b> トレードワーク 消費生活コンサルタント 日本テトラパック株式会社 環境本部 マネージャー 豊田通商株式会社 基礎化学品・合樹部 基礎化学品グループ 課長職 バイオPETチームリーダー</p> <p>株式会社 クラレ エパール事業部 グローバルマーケティンググループ 株式会社 細川洋行 営業事業部 取締役事業部長 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住本技術士事務所 所長</p>	<p>有田 俊雄 氏(企画委員)</p> <p>加藤 直美 氏 金井 路也 氏 神田 和裕 氏 岡本 健三 氏 大山 彰 氏 後藤 敏彦 氏(企画委員) 住本 充弘 氏(企画委員)</p>

## 開催要領

- 日時：平成26年3月18日(火) 10:00~17:00
- 会場：(公社)日本包装技術協会 A会議室  
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
- 参加費：会員 17,850円(消費税5%、テキスト代含む)  
\*同時に3名以上でお申込みの場合には  
割引価格として1名14,700円  
一般 26,250円(消費税5%、テキスト代含む)
- 定員：80名

## 会場案内



- 東京メトロ日比谷線・東銀座駅下車徒歩5分
- 都営地下鉄浅草線・東銀座駅下車徒歩10分

## 申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください。  
協会HPからのお申込みも出来ます。  
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。  
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

### お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会  
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内  
〒104-0045  
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F  
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970  
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

#### 【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

## 第1回包装近未来シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行 FAX. 03-3543-8970

No. \_\_\_\_\_

会社名					
所在地	(〒 )				
電話				FAX	
参加者	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail